

埼玉の子供たちを
「人財」として
輝かせるために！



主体的・対話的で深い学びの実現 6則

毎日の授業では、子供たちが「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」など、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、教員が**変容(伸び)**を見取ることが大切です。
そのためには、**主体的・対話的で深い学びの実現**に向けた**授業改善**が有効です。…あなたの授業を見直してみませんか？

変容によって…

- ・ 機械的に記憶するよりも意義や意味を考えることで、より一層、知識や技能の定着を図ることができる。→**知識・技能の習得**
- ・ 自分で課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力が向上する。→**思考力・判断力・表現力等の育成**
- ・ 主体性に加えて、チームワークや優しさなど、人間性が向上する。→**学びに向かう力・人間性等の涵養**



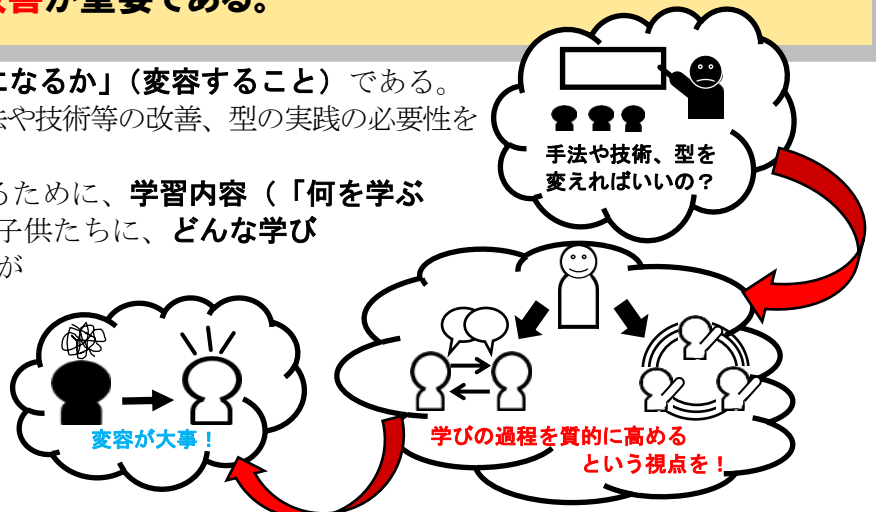
1. 【主体的・対話的で深い学びって何？】

- ・ **主体的な学び**: 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること
- ・ **対話的な学び**: 学び合い等、他者と協働すること等によって、**自己の考えを広げ深めること**
- ・ **深い学び**: **見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること**

2. 【何のために、主体的・対話的で深い学びの実現を？】

「何ができるようになるか」という子供たちに必要な**資質・能力**を育成するため。そのためには、「何を学ぶか」という**学習内容**と、「どのように学ぶか」という**学びの過程**を組み立てていく**授業改善**が重要である。

- ・ 目指すのは、「何ができるようになるか」(変容すること)である。
- ・ 一斉指導やグループ学習等の手法や技術等の改善、型の実践の必要性を考えるとということではない。
- ・ 子供たちに**資質・能力**を育成するために、**学習内容**(「何を学ぶか」)を明確にし、目の前にいる子供たちに、**どんな学びの過程**(「どのように学ぶか」)がふさわしいのかを見極めることが大切である。



3. 【「どのように学ぶか」をいま一度見直す】

子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けるために、特に、「どのように学ぶか」という学びの過程に着目して、授業の質を高めること。

- ・ 資質・能力の育成に向けて、子供たち一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出していく上で、特に、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた「どのように学ぶか」という学びの過程について着目し、授業の工夫・改善に取り組むことが重要である。

4. 【変容を見取ること】

「何ができるようになるか」という視点で、教員は子供たちの変容(伸び)を見取ること。

- ・ 子供たち一人一人が資質・能力を身に付けて、何ができるようになったかという変容(伸び)を子供たち自らが実感し、教員もその変容(伸び)を見取れるようにすることが大切である。

5. 【信頼関係に基づく学級づくりを】

主体的・対話的で深い学びを目指した授業と、信頼関係に基づく学級づくりを「車の両輪」として進めていくこと。

- ・ 学級は、子供たちが日々の生活を共にする基礎的な集団であり、学習活動や学校生活の基盤となることから、担任をはじめとした全教員と子供たちの信頼関係及び子供たち相互の好ましい人間関係づくりが重要である。
- ・ 子供たち一人一人の発達を踏まえた上で、学級での人間関係を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることで、各教科等の授業において主体的・対話的で深い学びの実現につながり、さらに学級づくりが充実する。

6. 【学び続ける教員集団であるために】

授業改善を目指して、教員同士で、深く考え、学びを通じて変容すること。

- ・ 教員が子供たちに求められる資質・能力を育むために、必要な学びの在り方を絶え間なく考え、教員同士で学び合うことで、様々な観点から授業の工夫・改善について議論を重ね、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。



教員同士で現状を分析し、まずは**できることから始める**ことが重要です。
「これでよい」という正答は1つではありません。常に子供たちのために**授業を改善**していくことが大切です。



コバトン